

## ミスジツマキリエダシヤクの被害と防除方法

問 昨年8月半ばすぎに20年生カラマツの葉がシャクトリムシに食べられ丸坊主になりましたが、秋遅くなってまた葉を出したので安心していたところ、今年になって一部の木が枯れてしまいました。この害虫の名前と防除方法を教えてください。(美瑛町 S 生)

答 ご質問の害虫はミスジツマキリエダシヤクと思われます。このシヤクガは昭和51年に網走郡清里町の11~15年生のカラマツ造林地に初めて大発生し、たった一度の食害で1林分のほとんどのカラマツを枯死させました。もともとこの種は、スギの害虫として知られていて、明治44年に秋田県で600町歩のスギを枯死させた記録があります。カラマツの害虫としては、この清里町での記録が最初のもので、それ以降、昭和55年に厚岸町、56年に美瑛町で被害が発見されています。また58年には美瑛町のほか、東神楽町や旭川市でも被害が発生しています。

この美瑛町の被害発生林分で、58年6月に20m×20mの方形区をとって枯死率を調べたところ、134本のカラマツのうち、シヤクガだけの食害で枯れた木が25%、シヤクガの食害に加えてカラマツヤツバキクイが穿入して枯れた木が19%、キクイムシが58年になって新たに穿入している木が10%あり、全体の半数以上の木が食害後2年で枯死することがわかりました。

このシヤクガの生活史は次のとおりです。成虫は6月上旬から7月下旬までの2か月にわたって出現します。この時期にカラマツ林内を歩くと、足もとからパッと飛び立つ白い蛾がそれです。卵は短枝葉上に一粒ずつ産みつけます。孵化は7月上旬から始まりますが、7月中は幼虫の数があまり多くありません。ところが8月にはいってから孵化した幼虫は、数がほとんど減らずに大きくなるため食害量が非常に多くなり、葉が完全に食べ尽されます。5回の脱皮を経て、体長4cmに達した終齢幼虫は頭部が赤褐色、胴部側線には濃褐色の条があります。8月下旬から9月上旬に地中にもぐり蛹となり、そのまま冬を越します。

被害の特徴は、①食害時期が遅く、8~9月である、②長枝葉、短枝葉とも食べ、数が多いときは新条もかじる、③被害木は秋遅くなって葉を再生し、そうした木は翌年8月までに枯死する、④20年生前後の造林地で被害が多く発生し、被害は2年で終る、⑤発生面積はあまり広くなく、一つの林分でも部分的で、被害木が風の方向に帯状に分布することが多い、などです。

このシヤクガは、8月上~中旬の幼虫期に薬剤散布さえすれば防除できますが、難点が二つあります。一つは、食害がかなり進んでから被害が発見されるため、最初の年は被害を回避しにくいことです。このため被害木が集団で枯死する場合があります。二つ目は、被害木が20年生前後であるため、薬剤を地上散布するのが難しいことです。当然ヘリコプターによる空中散布が考えられますが、それを実施するには被害が部分的すぎて非常に割高になります。以上の点を考え合わせると、地上散布ができない場合は枯死木や衰弱木を伐倒・搬出して、カラマツヤツバキクイによる生立木の2次被害の拡大を回避することが大切でしょう。

(昆虫野兎鼠科 鈴木重孝)

